山荘に解咲くもあり秋の月　器外
海原や碇おろして月こよひ　沾暁
見こゝの月の中なる月こよひ　沾恵
明月や遠不二までも里の棧　魯外
墨画にあまる薄縁やけふの月　風草
めい月や擢の中なる人の画　既酔
名月の秋の月かや夜に拾ふ　二鶴
名月や波寄る様子なき親(?)　狐延
めい月や木槿の中ものかゝる　狐来
加茂川の夜を業(?)を著てけふの月　布川
月こよひ撞きぞ千子三井の鐘　大鏡
月まてし誠るあり空(?)の松　岸李
詠吟を加える児を月のもの(?)　芦州
捨小舟十二閣も月こよひ　雀羽
名月や動ける鼓樹も浅(?)　左交
めい月も小萩ちる雲も見えつ　漁舟
名月や虫の音寄りて見ぬまへ　吸川
立撒(?)の暁加茂しさよりも月　氷樹
名月やかふ海も有り山もあり　雀子
新月も海の手桶の盃明ん(?)　湖月
めいこや我揺るのさしろ(?)　湖雪
我家の中にも煙りを月ならぬ(?)　永雅
星あかりも見まして月見る明(?)　玉匣
名月や海も静にも帆立見　窓雨
めいこる路(?)ふらせ雀時　拙我
名月やなかなか縋(?)に夜のあす　和佩
寝てし嬉(?)に色まっ(?)月こよひ　湖翠
名月や桶にも一ツ浮てけれ　湖雀
庚申(?)も人にせまりて月見かな　湖東
月こよひ九(?)い盗子もなかりけり　湖子
めい月や笈(?)をつゝふ姥(?)の上　湖鯰
またなくも月を吹きしかりかね月(?)　仙茶
松浦の雲井の曲も月こよひ　和鳴
沙の千鳥躍るやりかゝ(?)　木髪

月の雨もれ今宵こそ海をせきぬ(?)　芦舟
明こもや芦花に風の通ふまで(?)　沾古
漕ぬに我身明ん月こよひ(?)　文礎
名月や人樹にのこる葉角切(?)　木雅
月の面唐音もなく人もなし(?)　路荻
名月や樽に降る川玉みそ(?)　虎尾
影も魚の口すう浮称も(?)　梧井
名月も客にまかりす花起て(?)　蘋之
山寺の鐘をさすらふや月こよひ　百泰
月こよひ我家へかへる方もなし　一泉
玉川に蛙の里あり月のくれ(?)　仙子
めい月やこのまたまた地ぬに立公(?)　雨井
名月や夜田へ下る鷺とほす(?)　文喜
明月も漁の番る根来挽(?)　星衣
時に聰月やこよひの漂(?)　亀貝
棒る高きありかの月(?)　錦升
名月も今宵皆屋のおもこぼ(?)　秀佳
見てそれの赤も行くみなりの月(?)　三升
樹の年にて遥かげてきれこ(?)　秀里
名月や明けはじめて柑子ふる　辰秋
火の遍へ月やかゝれん月こよひ(?)　芦貫
名月や鶴守らの猿に五の枕(?)　遠文
柳なる詩の中海やけふの月(?)　伴侶
名月や沙嘆るかえりみ見(?)　松櫻樓
名月やさそこなかてもる畑過り(?)　湖十
宝晋齋
子仲秋